

厳教慈育

袴姿で颯爽とあらわれた山口春美(芳林)さん。大筆に墨のエネルギーをたっぷりとすわせると、墨痕鮮やかに一気に書き上げた。「厳教慈育」。きわめて明解。インタビューのタイトルは決まり! 書も呼吸なのだと直観した。



■ ism.#42 HARUMI YAMAGUCHI

「ええ、父が学校の先生をやりながら、書を教えていました。幼い頃から書が身近にあったわけですが、私は5才の時からはじめました。子供の頃は欲がありませんから、初めのうちはただぼーっとというか、無心で練習していたんだと思います。特に好きで、好きでというわけでもなかつたです。でも、ある日突然好きになるみたいですね。

私の場合は小学校3年の時、先生が『凄い天才!』と書いてくれて、私の作品が貼り出されたんです。はじめはウソ!と思つたけど、1年間も貼り出されていたんですよ。そのうちに『もしかしたら、そうかもしれない』(笑)と。先生がほめ上手で、ひょつとしたら私が勘違いしただけなのかもしれないんですけど(笑)。でも、このことが書道に進むキッカケになつたのだと思います。

私は子供達に勘違いさせるよ

子供本人の気持ちが一番大事

06年4月号 ism 参照)

私はこの子(山口芳水君20歳)。

りの思惑でああしなさい、こう毎日、本当に連れられないでいる。子達でも、本人がやりたいという子だけ来てもらうようになります。子供にその気がないのに、母親が自分が下手だったからこの子にはとか、本人の気になつてからにしましよう。

ウチの場合、主人はどちらか

少しだけ興味さえあれば、それはもう来る者拒まずですね。



■ ism.#42 HARUMI YAMAGUCHI

学校の勉強も教育の一部でしょ
うが、美しいものを美しいと
感じる心、優しさ、心の豊かさ
とか、生まれ落ちた時にみんな
等しく持っている生命の大元の
エネルギーこそが、一番大切な
ものだと思うんです。そのエネ
ルギーを失わずに、一人一人が
違う生命で、世の中にどれだけ
貢献できるかという思いを持つ
て伸びていく子達は、字もすば
らしくなるけど、人間としてど
んどん輝いていきますよね。そ
うやつて輝いていく子達を見
るものが本当に嬉しいんです。」

10年程の間に、賞という賞
を総ナメにした春美さん。その
10年間は自分でも頑張った。



でも肩がこりましたと笑う。
そういう生活をボーンと未
練なく捨てて、子供達の指導
に専念してから肩の力が抜けた。

「今は、本当に毎日がこんなに幸
せでいいのかしら？」（笑）感謝
ありがとうございます」という思いな
どが、蘇生化していく
聞きたながらそう思った。W

山口芳林書道教室

佐賀市新生町4-48 tel.0952-22-3587



20才の子が読めないようなことを全部叶うし、物欲は全然無い
んな小さな字も裸眼で読めるし、
生き続ける事が喜びなんですね。
ええ、本当にしたいことだけを
して生きています。長生きの秘訣よ
うともを子供達に与えたい。
行きたくないお葬式なんか行かない
いし（笑）。」



ついたながら、そのことに気づかずにはいたり、伸び悩んでいる子にどんどん磨きをかけて、才能を開花させていくのが得意です。私やこの子は、普通の子達、むしろ当人は全然ダメだと思われるような子達に、自分で眠つてるものに気づかせて、書の楽しさを伝えて、伸びいつてもらうのがうれしいんですよ。ウチの教室には、5時間でも6時間でも書き続ける子もいるし、毎日のように来る子もある。みんな大歓迎です。

中には、体中50針以上も縫つた『ケンカが趣味』という子もいます。はじめのうちは、その辺に寝つころがって、文鎮を隠し持つて、どうやつて乱暴してやろうかというような態度の子だったんですが、1ヶ月程で劇的に変わっていましたね。ちょっと先生と話すよと言つて、じっくり話してみると、本人も心の底では分かっているんですね。悪いことに気づいている。心のどこかに自分で止めようのない何かがあるみたいでしたが、よく話して書の面白さに

気づいてからは早かったです。その子の近所のお母さん達も、えー？本当にこの子があるの〇ちゃんなの？と言うぐらい変わりました。その逆パターンで、引きこもりの登校拒否の子も、少し時間はかかりましたが、自分でスイッチがカチンと入つて、自信を持てるようになつてからは、みるみる変わつてきましたね。中学2年の途中でウチに来たらんですが、高校も難なくパスして。

子供達の命はみんな違いますし、みんな違つて、みんないりますよね。子供は本当に宝物だと思います。今も、週1回保育園に教えに行つたりしてゐるですが、1週間いろいろあっても、子供達の白紙の状態の言葉が新鮮ですし、いつも心が洗われる思いがします。あー、この子達にこういう形で接することのできる立場にいられて、本当に良かつた！感謝！という思いですね。私は毎日、本当に子供達に教えられて成長してゐるんです。